

新型コロナウイルス感染症調整本部医療部会（第7回）会議録概要

1 日時

令和2年12月26日（土） 10:00～11:40

2 場所

県庁 6階 大会議室

3 出席者

14名

4 主な意見等

(1) 年末年始における医療提供体制及び検査体制について

- ・ クラスタはどこで発生してもおかしくなく、地域で入院受入が対応できるようなブロック単位の考えも必要である。
- ・ 陽性患者が増加している中、重症度の点数化等で適切に医療機関に割り振ることによって医療機関の負担を減らすことが必要と考える。

→重症度の判定については、スコアリングによる重症度分類を実施し、ホテル療養者についてもスコアリングを実施し、入院等の調整を行っている。

- ・ 確保病床の50%を超えると負担が大きくなることから、医療機関の負担軽減のためにも、離島も含めた宿泊療養の体制強化も必要である。

→現在、離島における宿泊療養先の確保について、調整中である。

(2) 病床確保計画に基づくフェーズ設定について

- ・ フェーズ移行に際しては、基準を1日の断面で見るのではなく、患者が増えていくような状況を確認できるような指標が良いと考える。

→フェーズ移行については、同一基準にすることを検討。その際の基準は3日間の病床稼働率、分母は即応病床数を前提に検討を行い、改めて意見を伺いたい。

- ・ 重篤、重症者の受入をする大学、市立病院の現場職員の疲弊感を確認する事も大事である。

→各医療機関においても重症のほか、中等症でも受入できる体制づくりを行っており、徐々に増えてきている。

(3) その他

- ・ ワクチン接種に係るスケジュールを示したが、体制を整えるためには、国からの具体的な提示を待っては進まない。